

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

June
2021 6

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2021年6月1日発行(毎月一回発行)第762号

● 出会い・本・人

物語る本をめぐる物語 大頭真一

● 特集「説教」を学ぶなら

この三冊！ 宮井岳彦

● 本・批評と紹介

國友淑弘著 黒人靈歌の即興性 中島 聡

ローワン・ウイリアムズ著／

ネルソン橋本ジョシユア諒訳／西原廉太監訳

キリスト者として生きる 笹森田鶴

加藤常昭著

加藤常昭説教全集31 使徒言行録講話 井幡清志

金子晴勇著 キリスト教思想史の諸時代Ⅱ 出村和彦

村椿嘉信著 荒地地に咲く花 千葉宣義

古屋治雄編 信仰生活ガイド 教会をつくる 菅原 力

手代木俊一著 日本における讃美歌 金澤正剛

既刊案内

書店案内

苦難と自由の本質に挑む、並木旧約学の集大成、ついに刊行!

ヨブ記注解

並木浩一 ◆A5判 上製・498頁
定価6,600円

推薦の言葉

小友 聡

東京神学大学教授、
日本基督教団中村町教会牧師



いよいよ『ヨブ記注解』が刊行されます。日本を代表する旧約聖書学者である並木浩一先生が、半世紀に及ぶ「ヨブ記」研究の頂点として執筆した、本格的な注解書です。本書はヨブ記の意味と意図について、最新にして最高の見解を提示します。長く読みつがれる最良の注解書になるでしょう。

ヨブ記注解



並木浩一
NAMIKI Koichi

日本キリスト教団
出版局

2021年6月15日刊行予定

購入特典

先着300名様に『ヨブ記 並木浩一訳』冊子プレゼント!

本書に分かれて収録されている著者の翻訳テキストを、まとめて読める冊子をプレゼント。カバーについている応募マークを切り取り、はがきに貼ってご応募ください。在庫がなくなり次第終了します。

詩人が紡ぐ生きることへの励ましに満ちたエッセイ集

目覚めていく言葉

日々を生きるために

岡野絵里子

カトリックのラジオ番組「心のともしび」のWEB記事として連載されたエッセイを精選して収録。詩人である著者のするどい言葉が生きる勇気を与えてくれる。贈り物にも最適。

◆四六判 並製・128頁・定価1,540円

2021年5月25日刊行予定



日本キリスト教団出版局

出会い

人本



物語る本をめぐる物語

大頭真一

一冊の本との出会いが人生を変えることがある。

二十五年ほど前のこと。当時三菱重工で働いていた僕は牧師を志し、英国ナザレン神学校で学ぶことになった。退職まで一年を要したので、その間に読むものを求めたところ、当時のマゴニガル校長から届いた十三冊の一冊がマイケル・ロダール著STORY OF GODであった。表紙のポップな色づかいにかかわらず、当時のほくにはまったく歯が立たなかった。こんなことで留学してだいじょうぶかと、かえって不安になったくらいだ。英語力の不足、神学書を読むのが初めて、というハンディキャップ以外に、この書が読む者にパラダイムシフトを迫ることにも原因があることに気づいたのは、かなり後のことだった。聖書は物語。主人公である神が、愛ゆえに私たちとかかわり続ける物語。世界もまた神の愛の物語。これだった。

僕は本を読むのも理解するのも遅いほうだと思う。なにを讀んでもきちんとわかった気がしない。けれどもこの本だけは

きちんと理解しなければならないような気がした。でもただ読んだだけでは何が書いてあったのか、すぐに忘れてしまう。そこで牧会の合間に少しずつ翻訳し始めた。わからない箇所は書き直してもらった。今思えばよく付き合ってくれたと思う。十年が過ぎ、訳稿を藤本満牧師にお見せしたところ、お世話くださったって思いがけなくも日本聖化協力会出版委員会から「神の物語」として出版、二刷を重ね、現在はヨベル社から新書上下二巻で流通している。

その後、ロダールの来日・講演や、神の物語由来のほくらの著書の刊行などただただあっけにとられる展開が続いている。

一冊の本との出会いが人生を変えることがあるのだ。
(おおよし・しんいち||日本イエス・キリスト教団明野キリスト教会牧師)

「説教」を学ぶなら

▼この三冊！

宮井岳彦

(みやい・たけひこ…カンバーランド長老教会さまがみ野教会牧師)

カール・バルトが『教会教義学』の第一巻でこのようなことを言っている。「召命された者は、その時、教会に与えられた約束を、自分自身の言葉で、彼の時代の人間に対して、分かるものとしてゆこうとしなければならぬ。

召命、約束、聖書説明、現実性——、それらは、説教という概念の決定的な規定である」。この書物の出版は一九三二年。社会的な状況としては、この年の総選挙でナチが初めてドイツ議会の第一党になっている。これから戦争

に突入し、戦争が終わった後も、あの名著の執筆は続いた。そのような時代と彼の言葉とは無関係ではない。バルトの言葉は神の召命に従って、教会に与えられた約束を、その時代に向けて語り続けるものであった。

私たちの時代の説教者たちも、今の時代の中で宣教の言葉を獲得するべく戦っている。事柄にふさわしく礼拝を続けること、説教を語り続けること、それ自体がすでに戦いののだ。

説教者はしばしばこの戦いを孤軍奮

うになることを願って、その手引きを「することである。説教学において多くの書物や論文があり、その成果を一冊にまとめればかなりの大著となろう。しかしそれよりも実際に説教する者の助け、同伴者となるあり方を選んだということとはとても印象深い。

更に加藤先生は説教塾を通じて後進の説教者の育成に尽力してきた。私もそこで学ぶ者の一人だ。私に加藤神学に触れて印象深く感じたことは、他の何よりも神の御前にあるものとしての敬虔さだ。そしてその神学が極めて実際の事であることだ。

敬虔さについては、例えば本書で言及されている説教作成の過程が、黙想に特徴付けられているところにも端的に表れている。ルターの言葉を紹介しながら、神学すること（ここでは「説教すること」と言い換えて差し支えない）は祈り、黙想、試練だと言う。特

にこの「試練」は攻撃、しかも神からの攻撃を意味する。それは「いつも神の言葉を聞き続け、それによってひたすら生きぬくことに伴う試練」なのである。

本書は極めて実際の事だ。説教の準備の過程、聖書との出会いから説教するまで、そして聞き手に聞かれるまでを七つの過程に整理している。加藤先生の言葉で言えば聖書の言葉の立体化、御言葉が立ち上がる道だ。ただ、それは一定のアルゴリズムに当てはめれば自動的に説教ができあがるというような物ではない。神からの試練に身をさらす、神との祈りにおける戦いの過程である。本書は祈る説教者の同伴者となる。加藤先生の他の著書と共にぜひお勧めしたい。

H・J・イーヴァント『説教学講義』

あくまでも私の狭い見識であるが、

闘していると勘違いする。確かに説教者の土曜日の書斎は孤独だ。本当のところ、神の前に独り立つことなく説教はできない。孤独は説教の本質の一つであろう。しかし同時に説教は礼拝というパブリックな場で語られる言葉であり、教会の言葉だ。説教者は教会に立てられている。そして二〇〇〇年間神の言葉を託されてきた無数の説教者の仲間たちが、現代の説教者の周りを証人の群れとして取り囲んでいる。説教を学ぶとは、その証人の言葉に耳を傾けることに他ならないと私は信じている。

加藤常昭『説教への道 牧師と信徒のための説教学』

加藤常昭先生の説教学書の一つの集大成である本書には明確な目標がある。「この本を読み終えたとき、読者が確信をもって説教をすることができるよう

こんなに胸が熱くなる本を私は他に知らない。本書の経緯は訳者あとがきに詳しいが、一九三七年、イーヴァントがプレスタウにあるドイツ告白教会の牧師補研修所でした講義録だ。三六年に開設されたこの研修所は翌年には東プロイセンから追われ、イーヴァント自身もナチの手で逮捕されている。まさに戦いの中にいた教会への、そして説教者なっていく者への言葉である。イーヴァントは、神の言葉はこの世界に属する言葉ではないのだから、世界は神の言葉を根絶することができると言う。「だからこそ教会が没落することもあり得る。教会が没落することなどないと言い張ることは、褒められた話ではない」と指摘する。厳しい言葉だ。もしかしたら現代の教会も陥っているのかもしれない楽観論を戒める。単に社会情勢を見て悲観的に振る舞うのではなく、神の言葉に仕えるという

事実在即すところから生まれる厳しさだ。

イーヴァントの時代も、現代も、基本的な問いは変わらない。説教すること、礼拝すること、祈ること、それらはすべて戦いだ。私たちはこの一年の間、礼拝を献げられる自由が当たり前でないことを知った。疫病の蔓延は容赦ない。礼拝堂における公開での礼拝を休止せざるを得ないこともありうる。しかし、安易にその道に逃げないようにもしたい。私たちは今誰の目を気にし、誰に気を遣っているのか、もう一度考えたい。ここにも戦いがある。

イーヴァントは、悔い改めは決して自分自身との関係の問題ではないと訴える。悔い改めは神と世界との対立における、神の世界への侵入箇所だ。「悔い改めたひとりのキリスト者が神を信じない人々の中にいる」ということは、その神を信じない人びとの住む領域に

傷口が開いたということである」。教会は神とこの世界との戦いの現場だ。説教すること、祈ること、礼拝すること、それらはすべて戦いの業である。神の業が今ここでなされていることを確信したい。

教皇フランシスコ『使徒的勧告 福音の喜び』

三冊目にお勧めするのは少し色合いの違う本、しかしすばらしい一冊だと思っている。現在のローマ・カトリック教会の教皇フランシスコによる使徒的勧告であるが、現代カトリック教会の説教論と言って差し支えないのではないかと思う。

本書は福音の喜びを宣教しようと力強く訴えかけている。福音の喜び、それは「イエスに出会う人びとの心と生活全体を満たす」ものであり、イエスの差し出す救いを受け入れる者は「罪

と悲しみ、内面的なむなしさと孤独から解放される」。プロテスタント教会もローマ・カトリック教会も同じ信仰に生きている、同じ福音に生かされていると再確認させられる言葉だ。

特に私がフランシスコらしいと感じるのは、「出向いていく」ということについて言及しているくだりである。教会が宣教をするのであれば、例外なくすべての人のところへ出て行かなくてはならない。中でも優先すべきは「友達や近隣の富裕者ではなく、むしろ貧しい人や病人です。彼らは大抵見下され、忘れられていて、『お返しができない』人びとです」と訴える。そして、すべての教会に呼びかける。「出向いていきましよう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いていきましよう。(中略)わたしは、出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会の方が好きです。閉じこもり、

自分の安全地帯にしがみつく気楽さゆえにやんだ教会よりも好きです」。大いなる励ましの言葉だ。

フランシスコは現代社会の危機についても冷静に分析する。排他的な経済や貨幣という偶像崇拜、格差、都市化

などに関する神学的な考察は大変参考になる。現代社会はむなしさの虜になっている。福音の喜びが必要なのだ。私はこの書物からとても励まされ、また知恵を頂いた。思えば教皇フランシスコが長崎や広島を訪れたときの説

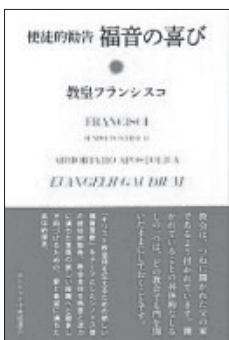
教も忘れがたいものであった。福音の喜びを説教する私たちの戦い、祈りにおける戦いは、今まさにそのまっただ中なのだ。



『説教への道』
牧師と信徒のための説教学
加藤常昭：著
日本キリスト教団出版局
2016年刊
B6判 176頁
1760円（税込）



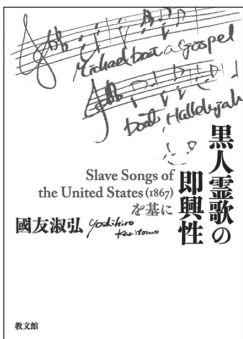
『イーヴァント著作選1』
説教学講義
ハンス・ヨアヒム・イー
ヴァント：著
加藤常昭：訳
新教出版社
2009年刊
四六判 253頁
2860円（税込）



『使徒的勧告』
福音の喜び
教皇フランシスコ：著
カトリック中央協議会
2014年刊
四六判 272頁
1760円（税込）

生きる力を与える 音楽の根幹

〈評者〉**中島 聡**



黒人霊歌の即興性
Slave Songs of
the United States (1867)
を基に
國友淑弘著



本書は、「Slave song of the United States (1867)」を
基点とする膨大な先行研究、採譜等の資料解析と、それら
先行研究、採譜を行った人たちの言葉をもって私たちがゴ
スペルの源に導いてくれる。

ただし、「我々（採譜者）ができることは、せいぜい紙
とタイプを使って、もしくは我々の声を通して、オリジナ
ルの良さのほんのわずかだけを伝えることだろう」（一〇一
頁）、また「見た目は明らかに、音楽が動きを生む。しかし、
もっと深い意味で言えば、動作のほうに音楽を生み出して
いるのだ」（九五頁）という言葉に出会うと、単に楽典の
理解によってゴスペルの源にたどり着けるものではないこ
とを知らされる。

「彼らは歌で労苦を和らげていた」（一九頁）。「ファイラ
ドフィアやバルティモアの港町における荷物の積み下ろし
譜は眺めているだけで楽しい。さらには、現代のゴスペル
指導者がコーラスを付けて、新たなゴスペルが誕生してい
く様を想像するなど、本書にはゴスペルにまつわる「小窓、
引き出し」がたくさんあって、何度も読み返してはそれ
ら一つ一つを開けていく楽しみがあることも伝えておきた
い。

長きにわたりゴスペルクワイアを導いてこられた國友氏
が「普段は教会に寄りつかない人たちが溢れんばかりに集
まり、生き生きと歌い」（二六六頁）、さらに「大病を患い、
死を前にしてもなおゴスペルクワイアに集い、賛美する
方々にも出会った」（同）と述べているとおり、ゴスペル
の魅力と力は計り知れない。私自身も教会に、日本語の聖
書の言葉そのままをゴスペルで賛美するクワイアが与え

の際や、西インド諸島から入港する大型船で働く船員やミ
シシピ川内の蒸気船内などで見聞きできる」（五五頁）。ゴ
スペルの源に迫ろうとする時、奴隷、使役労働者としての
苦しみ、悲しみにあっても生き抜くために絞り出された魂
の音に近づいていくことになる。

本書はあくまでもこの原点を重んじつつ、人々を魅了し
てやまないゴスペル独特のリズム、躍動感、即興性がどの
ようにして生まれきたのかについて、リズム構造、旋律
及び和声、スケール、ブルーノート、歌唱法、呼応と反復
等、私たちが知りたいと願っていた要素の一つ一つを解き
明かしてくれる。

そのため本書には七〇点におよぶ楽譜、リズム譜、採譜
した場所を示す地図など、可視化された資料が収められて
おり、中でも当時の息づかいを極力そのままに採譜した楽
え切れない。

「悲しむ人々は、幸いである。その人たちは慰められる。」
私は本書を通して神はこの聖句を真実ならしめるものの一
つとして私たちにゴスペルを与えられたと思えてならない。
ゴスペルの即興性とは、一人一人の苦難と悲しみに寄り添
いつつ、今生きることを切望する魂が生み出しているのだ
ろう。一人でも多くの人に本書に触れて、各々にゴスペル
の根幹である即興性の意味と力に出会い、共にゴスペルを
賛美していただきたいと願う。

（なかじま・さとし）日本基督教団清水ヶ丘教会牧師
（A5判・三一八頁・四一八〇円（税込）・教文館）

3世紀最大のキリスト教神学者
による旧約聖書の説き明かし

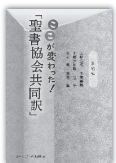


オリゲネス サムエル記上説教

小高 毅 翻訳
堀江知己

古代教会初の教義学者オリゲネスの、
サムエル記上による2つの説教と断片
を完訳、詳細な背景の解説を付す。嚴
格な説教者オリゲネスの姿が浮かび上
がる。A5判・144頁・定価2640円

聖書翻訳の難しさ・面白さを凝縮



ここが変わった！ 「聖書協会共同訳」

新約編

浅野淳博 / 伊東寿泰
須藤伊知郎 / 辻学
中野実 / 廣石望

新訳聖書「聖書協会共同訳」は従来の
訳と比べてどう変わったのか。「新共同
訳」や同時期刊行の「新改訳2017」
と比較しつつ、新しくなった点を31項目に
わたって新約学界を牽引する執筆陣が解説。
四六判・128頁・定価1320円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》

https://bp-uccj.jp

イエスと共に歩み出す 勇気をくれる一書

〔評者〕**笹森田鶴**



キリスト者として生きる
洗礼、聖書、聖餐、祈り
ローワン・ウイリアムズ著
キリスト教文化研究所編訳 西原廉大監訳

キリスト者として生きる
洗礼、聖書、聖餐、祈り
ローワン・ウイリアムズ著
ネルソン橋本ジョシユア諒訳
西原廉大監訳



わたしは霊的に飢え渴いていました。同様に身体的にも疲れ果てていました。そのことを周囲に気づかれないうように振る舞うために、できるだけ沈み込まないで日々を送る努力を無意識に続けていました。そのような時に本著に出会うことになり、わたしは自身の信仰の根本を問われ、チャレンジと同時に深い慰めを受けることになりました。むしろ沈み込むことの意義とそのままでも立ち上がっていく力を与えられたのです。

本著は、前カンタベリー大主教（イングランド聖公会の最高責任者）ローワン・ウイリアムズ師の、カンタベリー大主教退任後に同大聖堂で行われた聖週の定例公開講座の講演に基づいています。タイトルにあるように「キリスト者として生きる」上で必要不可欠で根本的な四つの要素——洗礼、聖書、聖餐、祈り——について、読者がそれぞ

れ思い巡らすことに招いてくれる著作です。聖書と教父たちの言葉に基づいた幅広い見識と深い洞察力をもって、しかも読者が理解しやすい語りかけによって構成されています。すばらしい人生を送るための考察でも指南書でもなく、あくまでも混沌としたこの世界の中でキリスト者として生きることの意義といのちの本質について語ります。

たとえば洗礼の項目において、著者はイエスのいのちと死にあずかるということの具体的な生き様を提示します。洗礼によってキリスト者が真の人間への回復への道のりを歩むことができるために、イエスはわたしたち人間の混沌の世界——人びとが最も危険にさらされている場所、最も混乱し、傷つけられ、貧しくされたところ——に降りてこなければならなかったと言います。そしてそのような無防備なイエスに従うということは、キリスト者が自身の人生

の混沌に気づき、同時に他者の壊れた人間性に巻き込まれ「貧しく、汚染され、壊れた世界の中心に置かれている意味」を受け止めることだと繰り返します。そのような世界に身を置き、リスクを負う時、聖霊を受ける準備が整えられるというのです。

これらは、著者が前職に就いていた折の世界中の危機や困難の中に生きる人びととの出会いを通して確信をもって語られる言葉です。その意味でコロナ禍を経験する以前の講座であるにもかかわらず、現代の混沌の状況の中にあるキリスト者にとって根源的な問いかけや示唆を与えてくれます。

世界的な感染症のパンデミックによって全く違う日常の

生活や信仰生活を余儀なくされているキリスト者にとって、今この世にキリスト者として生きる意味や自らの柱を再確認するための必読書です。個人でもグループでも読みすすめることを手助けする「振り返りやディスカッションのために」という問いも項目ごとに用意されており、さまざま使用が可能になっています。

本著は信仰の旅をしている誰にとっても重要な霊的なダイレクションを指し示してくれます。おそらくわたしはこれから何度かこの本を読み返し、それまでの道筋を振り返りながら初心に戻らされる信仰の旅を過ごすことでしょう。

（四六判・二二六頁・一七六〇円（税込）・教文館）



心の垣根を越えて

テゼのブラザー・ロジェ
—その生涯とビジョン—

打樋啓史・村瀬義史監訳



なぜ、世界中の若者が惹きつけられるのか。

「テゼ」という驚くべき出来事を可能にした人物ブラザー・ロジェの伝記。人々から最も愛されたキリスト教の指導者の一人。

A5判

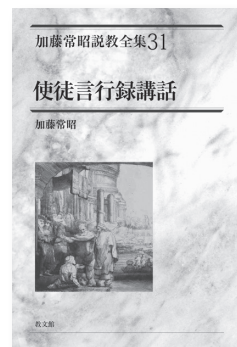
定価 3,080 円【本体 2,800 円 + 税】
ISBN978-4-86325-130-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

熟練の案内人と
御言葉を思い巡らす

〔評者〕井幡清志



加藤常昭説教全集31
使徒言行録講話
加藤常昭著



本書は、タイトルに『講話』とあるとおり礼拝で語られた説教ではないが、説教全集に加えられ、その第三一巻となった。すでに多くの巻が刊行され、多数の読者がおり、多くの学びを与えてきた周知の全集に一冊が加えられたわけ、「何を今更書評か」と言う気もする。

ところが、である。この書物、聖書の連続講解に違いないが、既刊の説教集と趣が随分と異なるではないか。

著者のあとがきによれば、内容は日本FEBECの番組「聖書をあなたに」で語られたものである。その放送時間は二〇分ほどで、著者が教会や講演で語る時間の半分にも満たないであろう。既刊の説教集『ルカによる福音書』は全四巻であるが、同程度の長さの使徒言行録を読むこの書物が（放送期間の都合で語られなかった章、節があるとはいえ）一巻完結なのは、そういう事情である。

察に字数が充てられ、説教に耳慣れない聞き手の心にも、聖書の言葉そのものが浮かび上がる。というより、一緒に御言葉を読み進め、時に引っかけたり、振り返りながら、使徒たちの営み、信仰、伴う聖霊のお働きをたどっている感覚が、より顕著に、また端的に得られる。

ある意味シンプルでありながら、熟練の案内人と共に御言葉一つひとつに立ち止まって思い巡らすような趣は、著者の説教集、聖書講解の豊富なラインナップの中にあつて、この使徒言行録講話の持ち味のひとつであり、手に取る者が得られる親しみと喜びではないか。

日本FEBECに長くご奉仕をしてこられた著者であるが、この講話は「そのご奉仕を終える頃の一年間の言葉の記録」とある。それが今回、新刊として世に送り出されたことに、

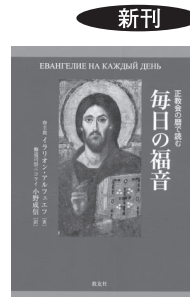
長さだけではない。この著者の、他の巻に収められた説教では、ひとつの聖書箇所を説き明かす際に、多くの著作

や説教、エピソードなどが丁寧な引用、紹介され、その紹介された神学者、牧師、信仰者たちと説教者との、ひとつの御言葉を巡って対話し、螺旋階段を上るように神の真実に迫っていく趣がある。あるいは引用から与えられる多様な視点によって、御言葉の核心に肉薄していくのである。このように豊富な「素材」を幾重にも重ねるように語り進められる説教は、著者の牧した教会の会衆のように、鍛えられた聴き手となることを求める面があるのではないか。

この著書は、その点で対照的である。聖書朗読を含み二〇分というスリムな時間で、面識のない様々な状況にあるリスナーに向けて語られている。それ故に、引用、紹介は少なく、その分、著者と聖書本文との直接的な対話や考

使徒たちの聖霊を待ち望む祈りは、今日の教会に共有されているかとの著者の問いを見る。その祈りが弱まっているかということである。あるいは、使徒たちの伝道を受け継ぐとは、教会が何を見つめることなのか、どう歩むことなのか。使徒たちの伝道の『記録』から、その主にある悩みと喜びと覚悟を今一度、見つめ直すべきではないかと、著作からの引用をもって結びたい。「聖霊を与えてくださる」というのは、これは全く神さまのお仕事であるに違いない。それを祈りをもって待つ以外にわれわれになすべきことはない。しかし、その祈りをもって待つ群れの姿勢は整えなければならない」（二二頁）。

（いばた・きよし）日本基督教団石動教会牧師、日本FEBEC担当教師（四六判・四六〇頁・四二九〇円（税込）・教文館）



新刊
正教会の暦で読む
毎日の福音

イラリオン・アルフエエフ

小野成信 訳 著

東方正教会の伝統と靈性に立ちつつ、四福音書を説き明かす。典礼暦にしたがって綴られた全354話を収録。現行で唯一の正教会の福音書解説。

A5判・576頁・定価3960円

日常の中の聖性

白百合女子大学
キリスト教文化研究所〔編〕

世俗化した現代社会に、人間に聖性のしるしがどのように刻印され、また見出されるのか。9つの論考を掲載。

A5判・208頁・定価2200円

●自費出版

お気軽にご相談下さい
教会史・説教集・論文集……文書
伝道にご奉仕します。高品質で
廉価な本作りを心がけています。

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819
http://www.kyoyusha.com

「不安な心」から身体―精神
―霊の「霊性の人間学」へ

〈評者〉 出村和彦



キリスト教思想史の
諸時代Ⅱ
アウグスティヌスの思想世界
金子晴勇著



本書は、『キリスト教思想史の諸時代』シリーズ第二巻で、古代末期、キリスト教と人文学を架橋したアウグスティヌスの探求者としての生涯の思想を「人間学」の観点から総合的に提示するものである。著者の長年の研究を透徹した形で表現する新書であり、バランスよくアウグスティヌス思想にわたしたちを導いてくれる。

かつて若き著者は、『告白録』における「不安な心」に焦点を当て、神の前に立つ人間の心の動態を、前置詞 *ante* (神への対向性)、*abs te* (神からの転落性)、*in te* (神のうち)に、神にしたがって)の三方向によって抉り出した実存論的解釈(第三章)を鮮烈に提示し、学界に大きな影響をもたらした。今や本書では、「不安の心の哲学」から「霊性の人間学」へアウグスティヌスの精神的発展をより掘り下げて考察するに至っている(第四章)。本書のアウグス

ティヌスの「心の哲学」は、単に個人的な「不安な心」に定位するのではなく、神に開かれた霊性の観点から考察される。この霊性は人間に共通の身体―魂―霊の作用の中心である「心」の探求である。第六章「心の機能としての霊性」で著者は、「神の知恵が最高の至福を伴ってその源から汲まれるとき…その身体は如何程にすぐれているのであろうか。それは肉の実態を持ちながらも肉的な壊廃はまったくなく、魂的ではなくて霊的になるであろう」という『神の国』第二二巻を引用し、「これがアウグスティヌスの霊性の理解であって彼は最晩年のペラギウス論争の諸著作でもペラギウスの人間の本性の立脚した自然主義的な道德哲学と対決」していることを明らかにし、「神秘主義が説く観照との合一についてはいつも終末論的留保がなされ、希望の下に置かれた」(一四一頁)と指摘している。

ちなみに古代の「哲学(原義は知恵を愛すること)」という、専ら懐疑派等のヘレニズム・ローマ哲学やプラトン主義を指すものとされがちであるが、著者は、理性と信仰の連関についてのアウグスティヌスの独特な思想を説明し(第五章)、「愛によって働く信仰」において「最高の知恵は神であり、神の礼拝が人間の知恵である」とし、「人間であるイエスを通して神なるキリストへとわたしたちは導かれる」という思想を強調して、そのような神への愛こそ、神から与えられたものであり、その神の愛が注がれるのは「わたしたちの心」であって、アウグスティヌスは「このような心は聖霊の働きと一緒に「霊」となって起こっている」と考える。ここにはカリタス(聖なる愛)の論理が明瞭に認められる(二六三頁)とする。

さらに本書は、アウグスティヌスの後期思想を理解するのに格好の手がかりを与えてくれる。第七章「ペラギウスの批判と霊性の復権」は、アウグスティヌスとペラギウスの恩恵論の特徴と相違について実によく整理して記述されており、これに続く第八章「原罪と予定の問題」は、アウグスティヌス自身の「情欲」への取り組み等、彼の思考の本質を提示する周到な説明がなされていて必読である。「予定」に関しても、カルヴァンの「予定説」との相違について有益な指摘(二〇六頁)がある。

本書は、アウグスティヌス原典翻訳に長く尽力された著者の成果であり、まさに「青年時代に求めたものは、老年において豊かに与えられる」(ゲーテ)喜びそのものである。(でむら・かずひこ 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授)

(新書判・二七二頁・一三三〇円(税込)・ヨベル)



新刊
死生学年報
2021

臨床死生学の意義

東洋英和女学院大学
死生学研究部編
●A5判並製 定価2,750円

ともに悲嘆を生きる
童謡の時代を振り返る
島園進

「スピリチュアリティの定義」を
めぐって
伊藤高章

死の想像物を「振り払うこと」
ポール・リクール遺稿集
『死まで生き生きと』から
山田智正

「小さな死」と「孤独」
大林雅之

いのち教育はどこに向かうのか?
坂井祐円

近代日本における医療と宗教
死生学の制度的背景
奥山倫明

子どもの魂と再生
神話・儀礼・昔話から
古川のり子

86歳のパンデミック体験
玉谷直実
他、4篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

「愛」の再考を――与えられた
「いのち」を生かすために

〈評者〉 千葉宣義



荒れ地に咲く花
生きることを愛すること
村椿嘉信



著者は「まえがき」で、この本の内容は「私が肝ガンの告知を受けてから、生きること、愛することについて考えたことである」と述べている。その闘病生活の渦中であつて、名古屋の教会の伝道集会での説教と講演、静岡県富士地区での反ヤスクニ集会での講演を収録し、「序章」で「説教・講演では十分に述べられなかったことを付け加えた」としている。

著者は横浜出身だが、説教であれ講演であれ、その語る根底にいつも日本と歴史を異にし、さまざまな差別にあつてきた沖繩という地に立脚し、「神によつていのちを与えられ愛されている自分を生かし、愛をもつて相手と向き合い、共感し合う関係」を大切にしようとする思想・姿勢を据える。そのため著者が取り組んできた現実の批判すべき問題については、調査・分析、現状把握を徹底し、その困難な課

題とどう向き合うかを諮らうとする。そして沖繩の米軍基地の現状や、その背後にある日本政府の政治的謀略や隠蔽等を明らかにし、さらには天皇を政治利用し国家へと人々を統合する国家と住民との歪んだ関係を批判的に問う。

著者は、その課題に対してアルノー・グリユーンの思想を紹介している。グリユーンはドイツ・ベルリン生まれのユダヤ人で、ナチスの迫害を逃れ米国に移住後、再びヨーロッパに戻りチューリッヒで精神療法の診療所を開設した。グリユーンの著書『私は戦争のない世界を望む』と『従順という心の病い』を著者は翻訳している(ヨベルで購入可)。グリユーンは、私たちの心が憎しみや差別、暴力や戦争を生み出すと指摘し、その心の動きを解明し、「共感」こそが差別や暴力を克服すると結論づけた。

著者はグリユーンに学びつつ、イエスが教え実践した「愛

すること」こそが個々の人間に個性をもたらし、多様性の上に成り立つ平和な世界を実現すると言う。そして「愛すること」が神から個々の人間に「贈り物」として与えられている「最大の可能性」だが、人間はこの「可能性」を誤解していると述べる。著者は、高尚な愛(アガペー、無償の愛)とそれ以外の低俗な愛(エロス、欲望)を区別し、「無償な愛」「自己犠牲的な愛」「献身的な愛」を固定概念として人に強要するのは誤りだと言う。また「愛されること」つまり認知欲求は、「愛すること」の誤解だと主張する。つまり同調圧力の強い日本では自分を押し立てて相手の気に入るように振舞うことが多いが、権力者や権威者の意向のままに、あるいは何らかのシナリオに生きようとし、自分を殻に閉じ込めるのは「愛」ではないと言う。不完全な人

間が愛するということは、間違ふかもしれないという冒險的な行為かもしれないが、相手との自由で創造的な共同作業でもある。著者はこのように、「愛すること」の再考を厳しく問う。

著者は、その上で、不完全な人間が「愛し合い、多様性を認め合い、ともに生きるときに、希望を持つことができ」と結んでいる。混沌とした時代の中にあつて、荒れた地に花を咲かせるために、教会や任意の集いで読書会のテキストとして用いられるようお薦めしたい。

最後に、著者の闘病生活の上に神の守りと支えを共に祈りたい。

(ちば・のぶよし 八幡ぶどうの木教会代務者
四六判・一五八頁・一三三〇円(税込)・ヨベル



新刊

ルター研究
第17巻

特集
宗教改革と疫病

ルター研究所 編
●A5判並製 定価2,200円

《翻訳》
マルティン・ルター
「人は死から逃れることができるのかどうかについて」
(1527年)WA. 23, 323-386
多田 哲

●
ルターの
「ペスト書簡」を読む
宮本 新

●
「まことの礼拝」を考える
新型コロナウイルス禍の産物
立山忠浩

●
コロナー
人類・ルター・教会
江口再起

●
ルターの
「三重の秩序と立場の教え
(drei-Stände-Lehre)」と
教会の宣教
石居基夫
ISBN978-4-86376-828-4

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

教会の不思議に 出会いながら

〈評者〉菅原 力



信仰生活ガイド
教会をつくる
石田 学、大隅啓三、
新井 純、加藤常昭他著
古屋治雄編



「教会」の入門書は初心者の方にとってだけ必要なもの、というわけではない。教会にずっと通っている人にとっても、「教会」を知ることが大事なことだ。いや、それは大それたことでも、どうしても必要なことだ。その理由は、教会の「不思議」によるのである。教会は人間が発議して、人間の手でつくられたものではないからである。

教会は神の働きによるもの、神が主導するもの、生きて働くキリストの体なのだ。それは人間の組織に慣れた者にとっては、「不思議」以外の何物でもない。この「いろは」の「い」はなんどでも立ち返っていく必要がある。しかもそれだけではない。キリストが生きて働くこの体は、そこに召された者たちによって担われ、つくり上げられていく、人間の教会でもある。キリストの教会は、あやまち多く、欠けに満ちたペトロが用いられる教会でもある。この教会

の「不思議」に初心者であろうが、長く教会に通う者であろうが、なんどでも出会って驚き続ける必要がある。『教会をつくる』（古屋治雄編）が出版された。日本キリスト教団出版局の定期月刊雑誌「信徒の友」に掲載されたものと、今回新たに書き下ろされたもの合わせて14編からなる書物である。

この本は三部構成。第一部は「教会の土台」、第二部は「教会生活の喜びと希望」、そして第三部は「教会を担う」である。しかしこれだけでは紹介にもならないので、目次のタイトルだけでも書き記せば、第一部には、「教会の本質」「教会の使命」「教会の役割」「聖礼典」「洗礼」が収録され、第二部には「人生」「新来会者」「賛美」「葬儀」「子どもの信仰告白」が、そして第三部には「祈禱会」「献金」「役員会」「招聘」が掲載されている。

文章は長短があるが、大きくはないサイズの本（四六判）で、短いもので5頁。長いものでも11頁。となれば、一つのテーマを手際よくまとめて簡潔に説明してあるのだろう、と思われるかもしれないが、そうではない。説明をこえてもっと深く、もっと豊かな場所に導いてくれる。

ここにあるのは、実際に教会に身を置いて、教会で生きている人によって書かれた文章である。まさに本書の構成どおり、教会の土台を信仰によって受けとめ、感謝をささげ、希望を与えられ、教会を担っている人たちによって書かれたものなのだ。テーマに即して、具体的な知恵や、課題の明示や、アドヴァイスも語られている。だが、それだけでなく、その背後にメッセージが込められている。それは、あなたも神が働かれる「不思議」に自分の体をさした

して、神の恵みを存分に受けてほしい、というメッセージだ。生も死もつかさどる主の恵みの中で歩んでいこう、死をも超えて与えられる希望の中で歩んでいこう、という招きが語られる。神の招きを受け続けている者たちが、読者を「招いて」いる。あなたも神に応えていこう、と静かに力強く呼びかけている。『教会をつくる』のはだれか。あらためてこの本を読みながら考えさせられた。

この本は、教会初心者はもちろん、今教会に行っている人、教会に関心を少しでも寄せてくれている人、いろいろな人、教会に読んでもらいたい。一緒に教会の「不思議」に出会いながら、あらためて恵みを受け、その恵みに応えて今日を生きてほしい、そういう願いが詰まった本である。

（すがはら・つとむ）日本基督教団大阪のぞみ教会牧師
（四六判・一二八頁・一四三〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）

村椿嘉信 ゴのわん集代表

荒れ地に咲く花 生きることを愛すること

大反響！



混沌とした時代にあつて、社会のさまざま問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。「知恵」には限界があり、イエスは「愛する」ことが決定的に重要なと指摘した。私たちは「愛すること」によって、荒れ地に花を咲かせることができる。 四六判・一六〇頁・一三三〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

ヨベルの新刊案内



小友聡 (神学博士・東京神学大学 旧約聖書・「雅歌」に学ぶ) 謎解きの知恵文学 渾身の書下ろし！ 妖艶な「雅歌」がなぜ聖書正典に入っているのか。その不思議な謎を解き明かす！ 男女間の妖艶で、エロティックな相聞歌、女性解放の書「なまめく」を扱った、くたんの古典を「謎解き」をテーマとする「知恵文学」として読み直し、教会説教の主題となり得る脈脈を探る。 新書判・二二四頁・一三二〇円

長年の調査にもとづいた 日本讃美歌史研究の集大成

〈評者〉**金澤正剛**



日本における讃美歌
Hymnology in Japan
手代木俊一著



明治維新に入ってキリスト教禁制が解かれた時点で、典礼、聖歌ともラテン語を用いていたカトリック教会とは異なり、プロテスタント教会の布教活動で切実な問題となったことのひとつに、日本語の讃美歌を用意することがあった。その際新たに日本語による讃美歌を作詞作曲するよりも手取り早い方法として、既存の欧米の讃美歌に日本語の歌詞をつけて歌うという方法がとられたのはごく当然の成り行きであったと言えよう。そのような運動に中心的役割を果たしたのが、イギリスやアメリカからやって来た宣教師たちであった。実はかれら宣教師たちはすでに幕末に一八五九年の開港と共に来日し、活動を始めていた。一方日本人の中にも讃美歌の翻訳を手がけたものが現れたが、その中には勝海舟、島崎藤村、樋口一葉など、思いがけない人たちも含まれる。そのように興味深い歴史を、過去の

研究を踏まえた上でまとめ上げたのが、本書の前半に当たる第一部「明治と讃美歌」である。さらに第二部は、第一部の補足ともいえる十一の小論文から成り、合わせて約半世紀にわたる日本における讃美歌の初期の歴史を、実例を示しながら生き生きと描いている。

著者手代木俊一は図書館員として神戸女学院、津田塾を経て、一九八〇―一九八八年までの十八年間フェリス女学院に奉職し、その間キリスト教音楽に関する資料を収集、調査し、特に讃美歌の研究を進めるようになった。八六年「ジョージ・オルチン師の『日本における讃美歌』（全訳）」を『フェリス論叢』No.23に発表したのを皮切りに、論文、著作、さらには研究発表などを行い、その功績が認められて偕成会の学術交付金を得て、九二年から一年間をポストで過ごし、その結果をまとめて『讃美歌・聖歌と日本のル、初代日本聖公会主教ウィリアムズ、コンクリゲイション派のオルチンら宣教師たちの活躍、音楽教育家メーソンと日本宣教、植村正久の讃美歌論、そして最後は島崎藤村、樋口一葉とキリスト教という興味深い内容が続く。

近代』（音楽之友社、一九九九年）を出版したところ、それが高く評価され二〇〇〇年度学術奨励賞、さらには二〇〇一年度辻莊一・三浦アンナ記念学術奨励賞を受賞した。また二〇〇七―一三年にかけて明治学院大学歴史資料館の研究調査員を勤め、その結果をまとめた論文によって二〇一四年に同大学から博士号を贈与されている。今回の著書の第一部は、そのような長年の調査・研究にもとづいた集大成とも呼べるもので、本文百五十六頁に六十頁の注が付くが、その注がまた充実したもので、極めて読み応えがある。

改めて第一部の内容を見てみよう。勝海舟がオランダ語から詩篇を訳したことをもとに、海舟のキリスト教に対する心理的動きが描かれる。続いてバプテスト教会のゴーブ

と題された一つ目は明治学院ゆかりの四人に関して、松本幹と永田暉の英語論文の全訳と、鳥居忠五郎と安部正義に関する小論。二つ目は「ジョージ・オルチン小論」と題して、松本幹との関係と神戸女学院の音楽部創設をめぐる話題。三つ目の「讃美歌小史」は四つの短い話題を含むが、なかでも「琉球語讃美歌史」は琉球王国時代にさかのぼり、数多くの情報を含む内容で、実に興味深い。

（かなざわ・まさかた 国際基督教大学名誉教授）



日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編 呈・内容見本

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいえるべき必須の基礎文献。

好評発売中

● B5判・函入・984頁・定価49,500円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
☎03-3561-5549 FAX 03-5250-5107

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
浅野淳博、伊東寿泰、須藤伊知郎、辻学、中野実、廣石望著	ここが変わった! 「聖書協会共同訳」 新約	四六	128	1,320	〃	3/25
大野恵正	神の言葉と契約 —出エジプト記 19章—24章の研究	A5	531	6,050	新教出版社	3/19
柳沼時影	へボン先生との対話 —涙と共に福音の種を蒔く すべての人々へ	四六	312	1,870	ヨベル	3/8
江藤直純	ルターの心を生きる	A5	416	3,300	リトン	3/31
東洋英和女学院大学 死生学研究所編	死生学年報2021 臨床死生学の意義	A5	252	2,750	〃	3/31
畑野研太郎	ちいさな一歩 平和へ —「みんなで生きる」巻頭言集	四六	188	990	キリスト新聞社	3/10

既刊案内 (2021年2月~3月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
ローワン・ウィリアムズ著 ネルソン橋本ジョシュア訳 西原廉太監訳	キリスト者として生きる —洗礼、聖書、聖餐、祈り	四六	136	1,760	教文館	2/25
加藤常昭	加藤常昭説教全集31 使徒言行録講話	四六	466	4,290	〃	2/25
増田琴編	信仰生活ガイド 信じる生き方	四六	128	1,430	日本キリスト 教団出版局	2/15
立教大学教会 音楽研究所編	日本聖公会聖歌集による聖 歌伴奏・アレンジ集5	A4	66	2,200	〃	2/21
手代木俊一	日本における讃美歌 —Hymnology in Japan	A5	506	7,150	〃	2/25
佐々木栄悦	神の恵みの水路 —現代に問いかける 「ローマの信徒への手紙」	B6	152	1,430	新教出版社	2/16
山下壮起・二本信編著	ヒップホップ・アナムネーシス —ラップミュージックの救済	A5 変	264	2,750	〃	2/25
ジョン・ディア著 志村真訳	山上の説教を生きる —八福の教えと平和創造	四六	216	2,090	〃	2/25
宮平望	ゴスペルジャーニー —君に贈る5つの話	B6	143	1,320	〃	2/25
金子晴勇	キリスト教思想史の諸時代II —アウグスティヌスの思想世界	新書	264	1,320	ヨベル	2/8
Solae (ソラ) 作 いしいくみこ絵	起き上がり小法師	210× 210mm	32	1,650	〃	2/8
村椿嘉信	荒れ地に咲く花 —生きること愛すること	四六	160	1,320	〃	2/12
大頭真一	栄光への脱出 —出エジプト記	新書	192	1,210	〃	2/16
佐々木悠	言葉を歌う —グレゴリオ聖歌セミ オロジーとリズム解釈	A5	196	3,300	教文館	3/15
芝山豊、滝澤克彦、 都馬バイカル、 荒井幸康編	聖書とモンゴル —翻訳文化論の 新たな地平へ	A5	342	3,520	〃	3/25
川村信三編 キリスト教史学会監修	キリシタン歴史探求の 現在と未来	四六	268	2,640	〃	3/30
袴田康裕	改革教会の伝統と将来	四六	216	1,980	〃	3/30
G.フォン・ラート著 荒井章三編訳	ナチ時代に旧約聖書を読む —フォン・ラート講演集	四六	204	2,310	〃	3/31
佐藤彰	悲しみの過去を 手放し希望の未来へ —「不安の時代」を生きる	四六	80	990	日本キリスト 教団出版局	3/20

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本



キリスト教書店大賞2021

2020年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。

主催 キリスト教出版販売協会

ノミネート10作品 (タイトル50音順)

価格は10%税込

ナウエン・セレクション
アダム
神の愛する子
ヘンリ・ナウエン 著/宮本 憲 訳/堀谷直也 解説
定価2,200円 日本キリスト教団出版局
オススス 京都ヨルダン社 田代伸一さん

何を学んだではなく、何を身につけたでもなく、ありのままを受け入れてくださる存在を、再度深く教えさせていただきます。

人生に悩んだから
「聖書」に相談してみた
MARO(上馬キリスト教会ツイッター部) 著
定価1,540円 KADOKAWA
オススス 神戸キリスト教書店 須田剛司さん

バックと見はくだけでも、中身がガッツリ! 手に取りやすく、しかもメッセージが伝わります。

悲しみよありがとう
まばたきの詩人 兄・水野源三の贈り物
林 久子 文/水野源三 詩/小林 恵 写真
定価1,320円 日本キリスト教団出版局
オススス ライフセンター新潟書店 永井美智代さん

まばたきで意志を伝え、詩を作り続けた源三さん。妹久子さんの文章から、心打つ信仰詩がどのように紡がれてきたのか知ることができ、詩と写真で神さまへのさんびを奏でています。生きづらさを感じている方にお届けしたい1冊です!

だから私は、神を信じる
加藤一二三 著
定価1,320円 日本キリスト教団出版局
オススス 松山キリスト教書店 平岡光司さん

テレビ出演が多い著者。ある日民放の番組で讃美歌を歌っていた。熱心なクリスチャンとは知らなかった。人柄も良く、今著は、自らの信仰について深く語られている良書です。

希望する力
コロナ時代を生きるあなたへ
晴佐久昌英・片柳弘史 著
定価1,320円 キリスト新聞社
オススス 恵泉書房 西崎博史さん

コロナ禍という現状をどう理解し、どう対処したらいいのか、お二人の神父の対談、そして、書下ろしによって、希望が見え、励まされます。

誰にも言わないと
言ったけれど 黒人神学と私
ジェイムズ・H. コーン 著/榎本 空 訳
定価3,300円 新教出版社
オススス 教文館 草野未来さん

BLMがもたらがった今だからこそ、読みたい名著です。著者の黒人としての経験が、いきいきと伝わってきて、とてもよみやすい内容です。

クリスマス
カール・バルト 著/宇野 元 訳
定価1,540円 新教出版社
オススス 横浜キリスト教書店 高橋文彦さん

バルトのクリスマスに関する珠玉の10篇からなるメッセージ集。バルトの40作前半から70作半は迄、30年のスパンが有りメッセージの語り口の変化も味わい深い。活字が大きく老眼に優しい。永く読み継がれることを願い、心からお褒めいたします。

やさしさの贈り物
日々へ寄り添う言葉 366
片柳弘史 著
定価990円 教文館
オススス 仙台キリスト教書店 永野香織さん

読みやすく、価格も手頃のため、自分で読むことにも良いし、プレゼントにもふさわしい1冊です。

ひと時の黙想
主と歩む365日
マックス・ルケード 著/日本聖書協会 訳
定価1,980円 日本聖書協会
オススス ひぶろすの森 玉置幸代さん

カバンに入れて通勤、通学の時に読むことで、聖書のみ言葉に1日一回触れる事が出来るのは、まさに主と共に歩んでいる気分になれます。

ヤバいぜ! 聖書
あなたに贈る40のメッセージ
明治学院テキスト作成委員会 編
定価1,100円 新教出版社
オススス バイブルハウス南青山 加藤太郎さん

明治学院テキスト作成委員会による旧約聖書と新約聖書から20のメッセージと、各ページにアクティブラーニングがあり、個人やグループでの学びに最適です。

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

書店名	郵便番号	住所	電話	ウェブサイト	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinken_syoten_0530@atn00.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区新136 東横線センター174F	022-223-2736	共用		fcqaw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県船橋区2-2-2 千葉リサーチセンター1F	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisenchristian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyodunkwan.co.jp	xbookse@kyodunkwan.co.jp	00120-2-11357
フバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://tshindo-books.jindoo.com/	tshindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://www.biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.diglobe.ne.jp/yodhtrns/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		sksch@nva.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshatai.co.jp/	nagoya-seibunshatai@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.ytdo.net/or.jp/people/kytdan/	kytdan@nbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakabooks.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスひぶろすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		seikai-jps@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkian.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町1-2-7	082-208-0022	082-208-0177		hselbun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/mesujane_1007/index.html	sksch@docdokline.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教書店	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		sksch@docdokline.jp	01780-4-39985
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハルルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-halerya@bible.or.jp	00160-2-18410

神を信じる理由はあるか？



宗教と懐疑のはざまにて
 脳科学は神秘体験を解明できるのか？ 宗教哲学の中心的課題についてくり広げられる、信仰者と懐疑論者の対話。議論の行方を見守る読者にも自身の人生哲学と信仰の問い直しを促す真実探求の書。

ジョン・ヒック 著 間瀬啓允 監訳
 ● 四六判・並製・250頁・定価2,750円



聖書を考える
 P・リクール / A・ラコック 著
 久米博 / 日高貴士 訳
 聖書の背景を探る歴史批判的方法論と前景へ向かう哲学的思考。旧約聖書テクストの解釈をめぐり、聖書学者ラコックと哲学者リクールが論じ合う。古典思想から現代哲学まで広く見渡しつつ、聖書理解の新たな地平を開く一冊。

● A5判・上製・512頁・定価5,940円

宗教と理性をめぐる対話

花子とアン
 村岡花子の甲府時代
 深沢美恵子 編著
 『赤毛のアン』の翻訳で知られる児童文学者が、その若き日を過ごした地・甲府。本人の遺した随筆と貴重な図版で辿る瑞々しい青春の思い出。

● A5判・並製・200頁・定価990円

「新装版」
キリストにならいて
 由木 康 訳
 由木 康の名訳をオンデマンド復刊！
 きびしい自己批判、純粹性の追求、世俗への挑戦、キリストとの霊的な交わりを求めてやまない魂の巡礼の書。オランダの兄弟団を中心とする「新しい敬虔」の運動の中から生れた、中世キリスト教修養書の白眉！

● 四六判・並製・280頁・定価3,080円



教会実務を神学する
 山崎龍一 著
 牧師の待遇や会計実務の考え方、アーカイブスの重要性、教会の宗教学人格取得の意味など、牧師・役員になったときに必ず知っておくべき事柄を分かりやすく解説。牧師と信徒が共に教会を形成するために必携の書！

● 四六判・並製・224頁・定価1,980円

教会実務を神学する

事務・管理・運営の手引き
 主な得意先は教会や学校、幼稚園・保育園でしたが、それらの現場では、聖書や讃美歌、教科書・教材となる書籍の補給部隊」です。



編集室から

本年度より「本のひろば」編集室に加わるようになりました。よろしくお願ひします。

ここに来る前は、キリスト教書店で外販営業をしていました。その頃知人などに職業を聞かれて「う答えると、大抵は（キリスト教に関係ない人だと特に）何の仕事をしているのかピンと来ないようでした。そこで「キリスト教書籍の行商人だ」と言うと、大体腑に落ちたような顔をされたものです。ただそう言いつつも私自身の理解としてはもう少し的を射た表現がありました。「教会の補給部隊」です。

福音と世界

2021年6月号
 特集「死」をいかに語りうるか
 寄稿者 美馬達哉、竹信三恵子、立岩真也、天田城介、安田真由子、柴崎總
 書評 デイヴィッド・ライアン 『ジョーザス・イン・ディズ・ワールド』(清水知子) / イベント報告 『ゴッホの祈り』(山崎龍一) / キリスト教と現代文化 『Say a Little Prayer』(山崎龍一) / 好評連載 間瀬啓允 『非同時代性のために』(田崎英明)、古代イスラエルの文学史序説(勝村弘也)、第二『デモテ書(辻学)』ほか

A5判・定価660円・〒70円
 定期購読についてはお気軽にご相談下さい。
 新教出版社 TEL: 03-3260-6148
 Email: sales@shinkyu-pb.com

予告

本・批評と紹介
 2021年7月号
 (書評) ジョン・デア著『山上の説教を生きた』、山下壮起・二木信編『ヒップホップ・アナムネーシス』、大野恵正著『神の言葉と契約』、浅野淳博・伊東寿泰他著『ここが変わった！』、『聖書協会共同訳』新約編、村松晋著『近代日本のキリスト者』、神山美奈子著『私たちの日韓キリスト教史』、山口衣子著『私のハットフィールド』他

をはじめ日々必要とされる物品があります。足りなくなつたもの、新たに必要になつたものを注文として受けお届けする業務はまさに補給部隊で、教会の最前線の現場を陰ながら下支えしている実感がありました。

お届けする中には「本のひろば」も含まれていました。書籍購入のための参考というだけでなく、読み物としても大変喜ばれていたことは特に印象に残っています。この度その作り手に加わるようになりましたが、喜んでくださった皆さんの顔を思い出しつつ、その期待に恥じない誌面作りを心がけていきたいと思ひます。

(村上)

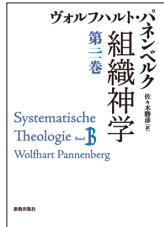
組織神学 第三卷

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

終末論的な賜物としての霊に関する教理。「霊の注ぎ、神の国、そして教会」、「メシアの教団と個人」、「選びと歴史」、「第15章 神の国における創造の完成」。

5月25日

◆A5判・定価13200円



正教の道

主教科リストス・ウエア著／松島雄一訳

正教会の全体像を知る上で今や古典的定番となった書籍の待望の邦訳。正教の教えを簡潔に説き、古代の教父、現代の著作家、正教の祈禱文などから豊富に引用し、その霊性の広さと深さを具体的に伝える。

5月25日

◆四六判・定価2530円

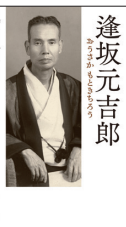


逢坂元吉郎

鶴沼裕子著（うぬまひろこ）氏は聖学院大学名誉教授

壮年期は讀賣新聞を舞台に宗教ジャーナリストとして健筆をふるうが、国粹主義的な宗教団体から受けた暴行による大患を機に、後半期は独自の教会論や聖餐論を展開して注目された牧師・神学者。逢坂元吉郎の生涯と思想を、著者の長年にわたる研究の成果に基づいて書き下ろした意欲作。

4月23日



ジーザス・イン・デイズニーランド

ポストモダン宗教、消費主義、テクノロジー

デイヴィッド・ライアン著／大畑凜 小泉空 芳賀達彦、渡辺翔平訳
監視社会論の泰斗が、デイズニーランドに象徴されるポストモダン社会における宗教の可能性を問う。

大反響

◆四六判・定価3850円



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二二年六月一日発行 毎月一回一日発行
本のひろば 第七六二号 二〇二二年六月号

発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3260-6148 振替0170-51170
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3260-6148

日韓キリスト教関係史資料Ⅲ

1945—2010

富坂キリスト教センター編

日韓の貴重な資料400点以上を収録。日本敗戦から日韓基本条約締結までの交流を第Ⅰ部、韓国民主化闘争と日韓連帯の動きを第Ⅱ部、戦後補償問題を含む日韓の交わりと統一への模索を第Ⅲ部とする。とりわけ民主化運動資料は他の追随を許さぬ充実。

◆A5判・定価16500円



定価七八円(税抜七一円) (¥63円)
一年分一三〇〇円(送料共)